

71 フレコンバッグ堆肥の品質と牧草・飼料作物への施用基準

福島県畜産試験場 草地飼料部・平成12年度畜産試験場試験成績概要

1 部門名 飼料作物－飼料作物－施肥法 分類コード08-02-130000000

2 担当者 江畑明彦・関 里織・武藤健司・土屋友充

3 要旨

既に県内堆肥センターの一部で実施されているフレコンバッグ堆肥の流通方式を更に普及拡大するため、その有用性と留意点を検討し、牧草・飼料作物への施用基準を検討した。

(1)フレコンバッグ堆肥の品質：県内3ヶ所の堆肥センター産フレコンバッグ堆肥の品質について調べたところ、堆肥の原材料や堆肥化処理方法等の違いにより成分値が異なり、同一センター産でも季節により1袋(1%)あたりの重量(554～754kg)、窒素含量(1.58～2.19%DM)、腐熟度(コマツナ発芽率66～96%)等、品質にバラツキがあった。ただし、県内畜産農家が生産した堆肥の成分値と比較して、異なる傾向はみられなかった。

(2)施用基準策定栽培試験：飼料用トウモロコシ、ソルガム及びオーチャードグラス主体混播牧草で2カ年の施用試験を行った結果、牛ふん堆肥を用いた既往の試験結果とほぼ同様の傾向となった。

(3)まとめ

・牧草及び飼料作物へのフレコンバッグ堆肥の施用基準は、従来の堆肥の施用基準と同様とする。

・予め施用するフレコンバッグ堆肥1袋(1%)あたりの重量(t/袋又は%)を把握しておき、対象作物の施用基準(t/10a)に合わせて、袋単位の施用量(袋/10a)を決定する。

(例)フレコンバッグ堆肥(800kg/1袋)を4t/10a散布したい→ $4t \div 0.8t = \text{施用量} 5\text{袋}/10a$

・ほ場の土壌診断結果や堆肥の成分値によって、最終的な堆肥施用量を調整する。

4 主な参考文献・資料

(1)小池一正ら.1990.連作トウモロコシを安定多収するための堆きゅう肥と化成肥料の適正施用量.普及に移す成果第26号:38-41

(2)小池一正ら.1995.堆厩肥施用トウモロコシ連作地におけるカリ無施用管理の成果.普及に移す成果第31号:32-33

(3)松井 茂ら.1998.ソルガム栽培における堆厩肥と化成肥料の適正な組合せ施用量.参考に供する成果第34号:71